

## 9月18日 J R東海要請活動会議録

日 時 : 令和6年9月18日(水) 10時00分～10時40分(要請活動)  
10時40分～10時50分(囲み取材)

場 所 : J R東海本社(東京) 大会議室

### 【司会：青木次長】

只今から、J R東海に対するリニア中央新幹線建設促進長野県協議会の要請活動を始めさせていただきます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます、「長野県建設部リニア整備推進局」次長の青木と申します。よろしくお願い申し上げます。

はじめに、本協議会会長の阿部守一長野県知事からご挨拶を申し上げます。

### 【阿部知事】

おはようございます。丹羽社長をはじめ役員の皆様方には大変お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

日頃から、リニア中央新幹線の整備・推進、J R東海の沿線地域である長野県の地域の発展・振興に大変ご尽力を賜っていること、この場をお借りして心から感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

本日は、リニア中央新幹線建設促進長野県協議会として、要請書を持って伺わせていただきました。

後ほど私と、本日お越しいただいております市町村長の皆様方から、要請内容を我々の生の声として、お伝えをさせていただきたいと思っております。ぜひお酌み取りをいただいた上で、地域と協力をしていただき、地域の皆さんの御理解をいただきながら、このリニア中央新幹線事業をしっかりと進めていただきたいと思います。

本日はよろしくお願い申し上げます。

### 【司会】

それでは、要請書の手交にうつります。阿部知事、丹羽社長は前にお願ひします。

報道の皆様も前の線まで出て撮影可能ですのでどうぞ前にお願ひいたします。

### 【阿部知事】

本日は、大変ありがとうございます。長野県協議会として要請をさせていただきます。非常に重要な県民の皆様のお思いが込められた要請書になりますので、よろしくお願い申し上げます。

**【丹羽社長】**

どうもありがとうございます。謹んでお受けいたします。よろしく申し上げます。

(阿部知事から丹羽社長へ要請書手交・写真撮影)

**【司会】**

次に、市町村長の皆様も後ろにお並びいただき、撮影を行いますので、前にお願いします。

(阿部知事と丹羽社長の後ろを囲むように市町村長が並び、写真撮影)

ありがとうございました。お席までお願いします。

続きまして、阿部知事より、要請事項につきまして、ご説明をお願いいたします。

**【阿部知事】**

私の方からまず総括的なお話をさせていただき、後ほど各市町村長からお話しをいただきたいと思っております。

先程、要請書を丹羽社長にお渡しをさせていただきました。今回大きく8項目要請をさせていただいております。いずれも重要な項目でございます。ぜひしっかり私どもの思いを汲んでいただければと思っております。

時間が限られておりますので、私からはその中でも3点お願いしたいと思っております。

まず一点目でございますが、この提案の一番目の早期開業・開業時期の明確化というところであります。

私も静岡工区の遅れに伴って開業時期がずれ込んでしまうことは、大変残念な状況だと思っております。ただ静岡工区については新しく鈴木康友知事がご就任され、これまでに比べるといろんな形でコミュニケーションできていると受け止めさせていただいております。ただ私どもとしては、この東京一名古屋間1日も早い開業をしていただきたいということでやっておりますし、また併せて開業時期を早く明らかにしていただきたい。様々な民間投資を呼び込むにあたって、いつになればできるのかということがはっきりするかしないか、かなり我々としては重要な問題でありますので、ぜひこの点をお願い申し上げます。

続いて、項目の3番目でございますが、建設工事等に対する地域の信頼・住民理解の確保について、まずは県内工区の工期についても、見直しがされるという形になっているわけでありまして、ぜひ地域の皆様には丁寧にご説明をいただいたうえで、地域住民の皆様のご理解をいただきながら工事を進めていただきたいと思っております。

また、要対策土への対応については、環境保全計画書が出されて、環境影響評価技術委員会で審議をするという形になっております。その技術委員会の皆様方のご意見を踏まえてしっかり適切な対応を行っていただきたいと思っております。

また工期が遅れることによって、例えば、長野県としても国道の拡幅工事等に影響が出るのではないかとということで懸念をしております。

リニア中央新幹線全体の工事日程が私どもの様々な取組に影響する可能性がある、とい

うことをぜひご理解いただき、しっかりそうした点は調整をしていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それから大きな3点目ではありますが、6番目の地域振興への積極的な取組という点でございいます。

これまでも観光振興など様々なご支援、ご協力をいただいております。また開業が伸びてしまいましたので、まずその間でしっかりと観光振興に格別のご協力をしていただきたいと思います。

リニア中央新幹線の活用も含めたインフラツーリズム等、JR東海の皆様方とぜひ協力していろいろな取り組みを進めていきたいと思っておりますので、この点ご協力いただければと思います。

それからもう一つまちづくりについてはぜひ格別のご支援、そしてお取組をお願いしたいと思います。先般9月9日に官邸で開かれた「リニア開業に伴う新たな圏域形成に関する関係府省等会議」に参加をしましてまいりましたけれども、中間駅のまちづくり、政府としても全力で応援していく、ということが岸田総理の口から直接説明されました。

我々新しい長野県駅（仮称）を様々な未来に向けての実証事業を行っていく実証圏域にしていきたい。そして、ある意味東京一極集中を是正する多極分散型国土を形成するためのモデル地域にしていきたいと思っております。

私もしっかり知恵と力を出しながら取り組んでいきたいと思っておりますけれども、もちろんこうしたまちづくりには、まさにJR東海の皆様方のお力が不可欠だと思っております。

できればJR東海の本社機能の一部移転等大胆な対応をしていただければと思っております。リニア中間駅、特に長野県駅（仮称）のこれからの発展に向けて、ぜひこのまちづくりの観点での格別のご尽力、そして我々の取り組みへのご支援をお願い申し上げたいと思っております。

以上私の方から大きく3点お願いをさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

#### 【司会】

阿部知事、ありがとうございます。

続きまして、本日ご同席いただきました市町村長の皆様からまちづくりに関してご発言をいただきたいと存じます。

はじめに、佐藤 健 飯田市長 お願いいたします。

#### 【佐藤飯田市長】

飯田市長の佐藤です。よろしくお願いいたします。

私から2点、知事の項目と被りますが2点お願いしたいと思います。

まず1点は要請書の3番建設工事等に対する地域の信頼・住民理解の確保ということでございます。

これも先ほど知事からも触れていただきましたように、スケジュールが地元工事においても変更になっているということで、このことについてぜひ地元で丁寧な説明をお願いしたいと思います。

また要対策土の使用について、当初の説明から変わったものがあります。

駅の橋脚に要対策土を詰めるとかそういう工事が出てまいりましたので、要対策土について非常に心配があるというところもございます。こういったことについては、丁寧な説明をぜひお願いしたいと思います。

また隣県において地下水の低下というそういったニュースも出ていまして、これも非常に心配をしている住民がおります。

これらのことについて丁寧に説明を重ねていただくことが非常に重要であると思いますので、こういったことについてぜひお願いしたいと思います。

何かあったときにももちろんすぐお知らせいただきたいんですけども何か特別なくても、定期的に説明会をしていただくとか、あるいは子供向けの工事現場の見学会とかそういったことも含めてぜひお願いをできればと思います。

もう一点は 6 番の地域振興への積極的な取組ということでございまして、この資料の方にも 3 点示しておきましたけれども、一つはリニアの飯田の駅につきましては、ぜひ環境についての取り組みをしっかりしていきたい。

リニア駅周辺については、環境先進地域になっていきたいとそんなふうに思っているわけですが、そういった中で駅空間をゼロカーボンあるいは再生可能エネルギーの活用ということをぜひ積極的に進めたいということで、飯田市が担当しております駅周辺整備においてはそういった要素をいろいろ盛り込んでいこうとしておりますけれども、ぜひ駅舎の屋根につきまして、太陽光パネルの設置などについて改めて検討していただけないかということです。

今のパネルですと荷重がちょっと計算外だということでご説明を受けているんですけども、10 年先ということであれば、今開発が進んでいるペロブスカイトのシート型の太陽光発電など新しい技術がどんどん出てくると思いますので、そういった意味で改めてご検討いただきまして、再生可能エネルギーの導入に積極的に取り組んでいただければと思います。

また駅周辺整備は先ほど申しあげましたように再生可能エネルギーだとか、ゼロカーボンだとかやっていますけれども、県産材をふんだんに使った杜の駅のようなそんな信州らしい雰囲気を作っていきたいと思っていますので、駅舎のデザインにつきましても、ぜひそれと調和した形で信州らしい駅作りにご協力をいただければありがたいと思っています。

それから地域振興への取り組みということで、先ほど知事から本社機能の一部移転というお話もありましたけれども、ぜひ J R 東海の事業所を出していただくことも含めて地域振興に関わっていただければありがたいと思っています。

併せて J R 飯田線につきましても、今高校生が朝夕の通学に使うというのがメインですが、リニアが通りますと、観光路線としての活用が非常に期待できる路線ではないかと私も思っていますので、ぜひとも一緒にそういったことについても関わっていただければと思います。

私からは以上です。よろしく申し上げます。

#### 【司会】

佐藤市長、ありがとうございました。

続きまして、白鳥 孝 伊那市長 お願いいたします。

#### 【白鳥伊那市長】

伊那市長、白鳥でございます。よろしく申し上げます。

共通の項目としまして、早期の開業私も非常に期待をしております。特に自治体の皆さんは、開業に向けていろんなインフラ整備とか、あるいは先行投資をしているわけでありますので、時期はなるべくわかった段階でおっしゃっていただければありがたく、お願いをしたいところでございます。期待が大変大きいということでございます。

それから要請書の 7 番アクセス・乗換への利便性・快適性確保への速やかな連携・協力について、今度伊那地域では高校の再編ということで、二つの高校が一つになったり、一つの高校にいくつかの高校の学科が加わって、今ある伊那北駅を乗り降りする学生の数で 1,800 人位になる想定です。長野県の J R 飯田線の駅の中では一番多くの乗降客がいるわけであります。

そこで、利用ピーク時間帯、具体的には朝夕の通学時間帯における駅の利便性向上に向けて、顔認証とかあるいは数値化したような顔認証に変わるものがないかということについて、おそらく J R 東海さんの方もお考えかと思えますけれども、私どもも生徒たちのスムーズな乗降や定時運行の担保が非常に大事だと思いますので、ぜひご検討いただければと思います。

それとサイクルトレインについて、今年の 10 月 19 日にトライアルでサイクルトレインイベントを長野県の補助制度を使って沿線の皆様と一緒にやります。たくさんの方が応募されております。

これが将来的には、いつでも乗れるようなそうした電車ができればなと思っておりまして、朝晩の学生の通学時間は無理にしても昼間使えますよとか、あるいはサイクルトレイン用の夢ですけども、車両が付けばそれで自由に楽しんだりできるということで秘境駅が非常にブームが続いておりますけれども、こうやってこのサイクルトレインということで、私達も期待をしておりますので観光振興の一助になると思っております。私の方から飯田線が大好きなところがありまして、よく職員と一緒に豊橋から田畑だとか、飯田から伊那までとか、いろんなところを取り上げておりまして、乗れば乗るほど楽しい線路になりますし、

これが世界で一番速いリニアと、また結節するということになると、新しい魅力が出ると思っていますので、ぜひ私どももいろいろ頑張りますけれども、一緒に取組をお願いできればと思います。

以上でございます。

#### 【司会】

白鳥市長、ありがとうございました。

続きまして、伊藤 祐三 駒ヶ根市長 お願いいたします。

#### 【伊藤駒ヶ根市長】

駒ヶ根市長の伊藤祐三でございます。ありがとうございます。

駒ヶ根市は、現在、中央アルプス駒ヶ岳を中心として、年間 100 万人の観光客を迎えているまちであります。リニア中央新幹線が開通すれば、首都圏・中京圏から最も近い長野県のアルプスリゾートということになる見込みでございます。1時間圏内ということになりますので、現在新幹線沿線の長野県内の観光地でございますけれども、アクセス的にはこちらのほうが圧倒的に有利だと考えております。

したがって、当初開始する予定でありました 27 年から 28 年度を目途に、まちづくりをそのターゲットに進めてきたのが実態でございます。今回こうした開業が先になったわけですが、準備期間をたくさん作ることができたと前向きに考えたいと思っております。

劇的なアクセスの改善は、新しいマーケットを作り出すはずであります。観光でもビジネスでもこうしたアクセスの改善により、氷河期からの 2 万年分の魅力をおこす癒しを、ぜひ多くの県内外の方に足を運んでいただいて、楽しんでいただければと考えております。

その次にありますのが、ゼロカーボンリゾートへの挑戦があります。氷河期からの 2 万年分の癒しをゼロカーボンの中で堪能していただければと思っております。

そのためにも、特にインバウンド客も含めて、通信・交通に全てスマホ等々で完結をする予約から決済まで一貫したシステムというのは、この準備期間が延びた分だけ、その分準備ができるんじゃないかと期待をしております。

ぜひ私ども自治体、地元経済界と一緒に、J R 東海御社のグループ力を、鉄道から決済機能までお持ちのグループ力を使って、一緒にこの MaaS 協議会を立ち上げていただきたい。

そして来たるべき開業の時期に向けて、伊那谷一帯を御社とともに、県内外のお客様を受け入れるためのプラットフォームを一緒に作っていただければこれほどありがたいことはないと思っております。

これまで南信州それから伊那谷というのは、どちらかというとインバウンド手薄の地域でございました。これが劇的なアクセスの改善によって、新しいゴールデンルートが伊那谷、南信州を起点に始まると確信しております。

ぜひ一緒に進めていただければありがたいと思いますので、よろしくお願ひ申し上げます。

#### 【司会】

伊藤市長、ありがとうございます。

続きまして、下平 喜隆 豊丘村長 お願いいたします。

#### 【下平豊丘村長】

豊丘村長の下平です。よろしくお願ひいたします。

実は、飯田・下伊那は本当に 1000 年以上前は、それこそ東山道が伊那谷を通ったことにより、まさにあの当時の都と東国のゲートウェイとして非常に文化の、それから産業が栄えたところでございます。

それが長い年月の間に飯田・下伊那というのは、日本の中の陸の孤島になっております。東京まで大体公共交通機関で 4 時間くらいかかります。実は、東京の友達に何時間くらいかかったのって言われたことがあって、4 時間かかったと言ったら、東京からグアムまで行けるな、と言われました。

そういう意味で残念ながら今のところ、長野県の中でも人口減少のこういう言い方がひどくて特に若い人たちが、家を出てしまうというような状況になっています。

しかしながら、今回 J R 東海さんがリニア中央新幹線を開業していただけるということ、東京まで 45 分、名古屋まで 25 分ということになります。本当にそういう高速鉄道が結ばれることによりまして、様々な地域で変化がおこっているのは確かでありまして、筑波なんかも前の桜の時から実はこれ私の弟が筑波大学病院の職員だったものですから、引っ越しのときにススキのぺんぺん草の中を引っ越したことを覚えております。それが今あんなになっております。

そういう交通の便が変わることによって劇的に変わってくるものが、様々な場所があると思います。

特に最近の地震や台風によりまして、都市部から地方へということで、国の方もかなりのその姿勢を示しておられるということ、それから J R 東海さんも、今回のリニア中央新幹線を開くことによりまして、沿線を開発するという部門もできたそうでございます。ぜひとも J R 東海さんに力を使ってもらいまして、様々な国、それから民間企業そういうものと結びながら、この地域を飯田・下伊那・木曾を元気な地域にしていきたいと思っておりますので、御力をお貸しいただきたいなと思ひます。

やはり住んでいて楽しくて、仕事があつて、それからここにいると儲かるような、そういうような地域でないとなつてというのは集まりません。

やはり生産年齢人口が大変大事だと思います。日本全体とすればどうしても人口減少でありますけれども、こういう特別な選ばれた地域になると、その特色を最大限に生かして頑

張りたいと思います。

よく様々な形でのご提言、ご協力をお願いしたいと思います。豊丘村あたりの、実は 75 ヘクタールの真っ平な良い土地もあつたりします。いろいろな形でまたそんなようなことも考えていただければ、幸いかなと思います。

以上です。

#### 【司会】

下平村長、ありがとうございました。

続きまして、熊谷 英俊 大鹿村長 お願いいたします。

#### 【熊谷大鹿村長】

大鹿村長の熊谷であります。本日は遅参をしまして大変申し訳ございません。朝 5 時に村を出てきたのですが、5 時間経っても 10 時に間に合わなかったということで、下平村長さんからお話がありました通り、隔絶している陸の孤島に住んでいる我々でございます。そういうものにとって、やはりリニアの高速鉄道の開通っていうのは本当に心から待ち望んでいる高速交通網でありまして、一刻も早い開通、一刻も早い開業を心から祈念しております。

全体的な視点からの要望は阿部知事はじめ皆さんからお話があったと思いますので、本当に具体的な部分で 2 点ほどお願いを申し上げます。

一つは地域振興に関してでありますけれども、本村ではやはりリニア工事もずっと継続的に行われているというところで、工事用車両の通行も多いので、なかなか観光業をはじめ、地域と産業振興についてなかなか厳しい状況が現在も続いているというところがありまして、そういう中で J R 東海さんと協議をさせていただく中で地域振興、特に商工業、それから観光業の振興に向けた協議会を立ち上げたいということをお願い申し上げましたところ、J R 東海さんの方でぜひ協力させていただくというご回答いただいているところであります。

こちらとしては調整させていただく中で、来月 10 月には第 1 回の協議会を立ち上げたいなということで考えておりまして、ぜひ J R 東海さんの特に観光部門の方の人選をしていただいて、お互いに win-win の関係を作れるような、そうした地域振興策というものをこれから協議をさせていただければと思います。ぜひよろしく申し上げます。

それからもう一点ですけれども、やはり工期の延長によりましてまず村内を通行する搬出土運搬車両の通行ルート of 県道松川インター大鹿線ですけれども、やはり拡幅改良等してはいただいたんですけれども、まだ狭隘箇所が何ヶ所かあることによりまして、そこがどうしてもネックになって、渋滞が発生しているという状況で住民の皆様から、ここからさらに工期が延長となることで、まだ我慢をしなければいけないのかという強いご意見も挙がっているのが現状であります。

そういう中で、更なる道路拡幅改良等の対策に対しまして、ぜひ J R 東海さんにもご尽力、ご協力いただきたいということをお願い申し上げます。

以上であります。

**【司会】**

熊谷村長、ありがとうございます。

続きまして、原 久仁男 木曾町長 お願いいたします。

**【原木曾町長】**

お世話になります。木曾町の原でございます。私の方からは2点、今日の要請書の6番と7番の関係でお願い申し上げたいと思います。

今日は長野県協議会ということでお願いにあがっているわけですが、木曾はご案内のように、中央西線それから国道19号ということで、岐阜県駅（仮称）が一番最寄りの駅になります。

その関係もありまして、ぜひ今までも木曾観光宣伝協議会を中心にして御社と本当にご支援をいただきながら観光にご支援をいただいておりますけれども、さらなるご支援をいただきたいということ。

それから岐阜県駅と中央西線をどのようにスムーズに接続、アクセスを良くするかというところも木曾にとっては非常に大きな注目をしている、お願いはしていくそんな課題がありますので、ぜひ本数もたくさん止めていただきたいですし、中央西線への接続、アクセスを良くするようなかたちでぜひご配慮いただければ大変ありがたいと思います。

私の方からその2点お願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

**【司会】**

最後に、丹羽 俊介 J R 東海社長 よりご発言を賜りたいと存じます。よろしくお願いいたします。

**【J R 東海丹羽社長】**

本日は阿部知事をはじめ市町村長の皆様におかれましては、品川までお越しいただきましてありがとうございます。

リニア中央新幹線建設促進長野県協議会の皆様には中央新幹線の事業の推進に当たりまして日頃から大変なご支援、ご協力を頂戴いたしまして、改めて感謝申し上げます。

今回、阿部知事、佐藤市長から、地元住民の皆様への丁寧なご説明、駅前広場や駅周辺における連携した取組み、工事現場の見学会等、様々なものにつきましてお話を頂戴いたしました。

白鳥市長からは、飯田線の改札の方式、サイクルトレインにつきましてお話を頂戴いたし

ました。

伊藤市長からは、プロモーションや MaaS の取組みにつきましてお話を頂戴いたしました。

下平村長から、観光振興等につきましてお話を頂戴いたしました。

熊谷村長から、道路改良、観光振興、要対策土の活用の丁寧な説明につきましてお話を頂戴いたしました。

原町長から、在来線との乗り換えや、観光振興のお話を頂戴いたしました。

それぞれ今回頂戴いたしました要望については、私ども事業者としてどのような形で協力できるのか、今後具体的な計画ですとかあるいは行う方法を伺うなど、コミュニケーションを取らせていただきたいと思いますと考えているところでございます。

また、広くお知らせしている所でございますが、静岡工区につきましては、いまだ着手できていないという状況が続いております。まだ開業時期を見通すことは出来ておりませんが、早期開業を目指して、工事の安全、環境の保全、地域の皆様との連携、これを重視しながら全力を挙げて取り組んでまいりたいと思います。引き続き、様々な発生土の活用等皆様のご協力をお願いいたしたいと思っております。今後ともご支援のほどをぜひよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

#### 【司会】

丹羽社長ありがとうございます。

知事、最後に何かございますでしょうか

#### 【阿部知事】

大変お忙しい中、お付き合いいただきましてありがとうございます。

私と各市町村長の思いも含めて、要請事項を伝えさせていただきました。

ぜひ丹羽社長の言葉にもあったように、ぜひコミュニケーションをしっかりと取りながら、具体的な対応を行っていただけるように引き続きご相談、協議をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

本日は大変ありがとうございました。

## 囲み取材

### 【建設工業新聞坂口記者】

知事と佐藤市長から、J R 東海の本社機能の一部移転をとあったが、J R 東海にはこれまでも話をされてきていたのか。

### 【阿部知事】

丹羽社長と前回県庁で話をしたときにまちづくりについてしっかり取り組んでいただきたいと話をさせていただいたところ。

（そのときは）本社機能の一部移転をという話はしていない。

東京一極集中が極めて大きな課題になる中で、関係府省等会議の場において中間駅のまちづくりについては政府としてしっかり支援していくという方向が総理から直接示されたところ。

リニア中央新幹線はまさに日本の国土のあり方を変える国家的なプロジェクト。その意味で私たちは長野県駅（仮称）を様々な社会実験を行う実証都市圏域にしたいところ。

東京一極集中ではなくて様々なかたちで分散型な国土を形成していく必要がある中で、J R 東海には本社機能の一部移転といった思い切った対策をしていただくと、まさに国土のあり方をリニア中央新幹線が変えるという強いメッセージになると考えており、検討をいただきたいと申し上げたところ。J R 東海にはリニア中央新幹線事業を通じて地域振興に貢献いただく観点からもぜひ前向きにご検討をいただきたいと思っている。

### 【佐藤飯田市長】

J R 東海の要所をぜひ飯田のリニア駅周辺にもという話は、昨年 12 月に行われた J R 東海幹部と市町村長との意見交換会の場、それから知事も出席した今年度の長野県協議会の席で発言をしている。

具体的な話はまだまだこれからということになるが、飯田市としてもリニア沿線に J R 東海の機能を分散していただきたいと考えている。

### 【NHK篠田記者】

知事と飯田市長に伺う。

本日は要請活動ということで県側からは早期開業含め様々な要請をされた。

丹羽社長からは開業については見通すことができないとされながらも、コミュニケーションを取ってしっかりとやっていきたいと回答があったがそれぞれの受止めはいかがか。

### 【阿部知事】

早期開業は長野県のみならず全ての沿線の皆さんが望んでいると認識。残念ながら静岡工区がなかなか進まない状況であったが新しく鈴木知事が就任され、かなり静岡県と J R 東海とのコミュニケーションがとられるようになっており、我々も期待して

いるところ。まだ着手には至っていない段階であるので J R 東海社長から本日は明確なお答えはいただけなかったが、いまの状況からするとやむを得ないのではないかと受け止めている。

引き続き早期開業、開業時期の明示については沿線の皆さんと一緒に求めてまいりたい。

**【佐藤飯田市長】**

地元としてもスケジュールが明らかにならないと色々な物事のターゲットが決まらない問題があるため、はやく開業時期を明示していただきそこに至るスケジュールを示していただきたいとかねてより求めているところ。

本日は明確には回答なかったが、コミュニケーションの機会を増やすということは社長の方から言っていたので、地元と事業者との信頼関係を築いていってほしいと思っている。

**【信濃毎日新聞竹端記者】**

知事に伺う。

今回は例年と違い、直接要請書を手渡す形となったが、その意義と成果、感触、今後どういった枠組みで今日皆さんが示された要望を協議されていくのか。

**【阿部知事】**

例年お渡ししていないわけではなくて、例年は県の方でやってきた。今回私の紹介の場でもやはり前の皆様方と一緒に要請をしようということで今日は 6 名の市町村長の皆様にご参加いただいた。

そういう意味で、県が総括してお話しするだけではなくて、それぞれの地域の課題や方向感、J R 東海の皆様にはご理解いただけたのではないかと思う。

丹羽社長からはしっかりコミュニケーションを取りましょうと話もあったので、今日は限られた時間のため、十分私どもの思いも伝わらなかったのもあろうかと思う。

引き続き J R 東海の皆様には、お時間を頂戴しながらそれぞれ課題であったり取組の方向性であったり、こうしたものを我々からも積極的にお伝えをする中で、ご協力、J R 東海自身の取組をお願いしていきたいと思う。

**【長野放送宮入記者】**

昨日、静岡県がポーリング調査を容認した。その点についての受け止めはいかがか。

**【阿部知事】**

静岡工区にいろいろな課題があると思うが、ただ、先程も申し上げたようにいろいろコミュニケーションをしっかりと図られるようになり、着実に進捗の方向で議論が進められていると受け止めている。静岡工区だけの問題ではなくて、沿線地域全体の課題になると思うので、引き続き鈴木知事と連携を取りながら、リニア中央新幹線が 1 日も早い開業に向けて力を合わせていきたいと思う。